

三木町教育委員会

小学校・中学校

1 実践のテーマ

「三木町ふるさとキャリアビジョン講演会」

2 目標

協同組合三木工業クラブ会員、三木町地域活性課・教育総務課、三木中学校が連携・協力して、三木町のスローガンである「若者が帰ってくるふるさとを創る」ために、ふるさと三木町に対する愛着や誇りを育む。

3 内容

三木工業クラブ会員による「ものづくり」企業としての誇りや「ものづくり」の魅力、三木町で働くことへの思いをテーマにした講演を通じて、職場体験に臨む中学2年生が、三木町の地場産業について知るとともに、将来ありたい自分像を描く機会にするために、「三木町ふるさとキャリアビジョン講演会」を毎年実施している。

(1)時 期 毎年6月 午後 2時間程度

(2)場 所 三木中学校体育館

(3)参加企業 (株)藤井製麺・大三機工(株)・ハイスキーフード工業(株)
(株)レガン・(株)コート (※令和7年度実績)

(4)対 象 者 三木中学校2年生

(5)参 加 者 三木町長・教育長・三木工業クラブ代表・地域活性課・教育総務課

4 成果と課題

□成果(生徒の感想より)

- 明治に創業されたという歴史の長さには驚きました。三木町にこんな素晴らしい企業があることを誇りに、私も将来三木町に貢献したいと思うことができました。
- 工場には三木中学校の卒業生が多くいることに驚きました。すごく近くにあるのでいいなと思いました。これから自分でも調べて理解を深めていきたいです。
- 大人になったら三木町を出て都会に行こうと思っていたけど、三木町で仕事を見つけてみたいなという思いが芽生えました。
- 世界にも進出している企業があり、やりがいもあって、かっこいいなと思いました。
- 様々な工程を経て、丁寧な手作業で製品を仕上げていることはとても尊敬できることです。

■課題

- 今後は、「ものづくり」企業だけでなく、町商工会、医師会等様々な団体と連携し、三木町の良さをさらに伝えていくことを検討している。



三木町教育委員会	三木町立三木中学校
1 実践のテーマ	「郷土 人を愛する」～お世話になった「三木町」への恩返し
2 目標	現在と未来のふるさと「三木町」のために、自分たちができることを見つけ、グループで活動することができる。
2 内容	次のグループ別で意見を出し合い、活動内容を深める。
	<p>① 小学生へ：町内 4 小学校の 6 年生に向けて、中学校を紹介する動画を制作する。</p> <p>② 干支作り：「馬」の置物を制作し、後援会で支援をいただいた事業所・個人へ配る。</p> <p>③ しめ縄作り：正月用しめ縄を制作し、職場体験学習でお世話になった事業所へ配る。</p> <p>④ 健康体操作り：主に高齢者へ向けた手軽に行える体操を考え、施設等で披露する。</p> <p>⑤ 鎌倉芳太郎紹介動画制作：町出身の鎌倉芳太郎の紹介動画を制作し P R する。</p> <p>⑥ 介護施設等訪問：町内の施設を訪問し、演劇や合唱等を披露する。</p> <p>⑦ 階段掲示：全校生のために掲示物を作成し、校舎や体育館の階段に掲示する。</p> <p>⑧ 新生児へのプレゼント作り：町内の対象者に向けて出産祝いの贈り物を制作する。</p> <p>⑨ 三木町紹介ビデオ作り：町の紹介動画（英語版・日本語版）を制作し P R する。</p> <p>⑩ 植栽の整備：校門前の植え込みを手入れし、植栽を行う。</p>
3 成果と課題	中学校 3 年生が、9 月～12 月の総合的な学習の時間（金曜日の 5・6 校時）で取り組んだ。週末に同じ活動をする生徒が集まり、何かを作り上げていくことを楽しみにして、その週の授業等も充実させることができた。「誰かのために」という他者意識が生まれたことや、地域の方々に感謝されたことが自己有用感を高めることにつながった。
	今回の実践では、これまでの職場体験学習や修学旅行等との関連を意識して、活動したグループもあった。今後も、総合的な学習の時間と各教科等の相互の関わりを意識とともに、探究的な学習を実現するために、探究の過程を生徒と共有して学習を進めていくことが必要である。
	  

三木町教育委員会	三木町立田中小学校
1 実践のテーマ	田中（三木町）のじまんを見つけよう～田中（三木町）の先輩に教わろう～
2 目標	三木町の自慢である獅子について調べる活動を通して、田中や三木町のよさに気付くとともに、地域の人とふれあい、地域に親しみや愛着をもつことができる。
2 内容	3年：三木町のじまん 獅子
①三木町のじまん見つけ	三木町のいいところ「ひと・もの・こと」を出し合った。児童は、「獅子舞」、「まんで願」等、祭りに関する「もの・こと」への意見が多く出され、特に獅子への関心が高かったことから、地域の獅子について調べることにした。
②地域の獅子連（朝倉獅子連）との交流	獅子舞への関心を背景に、地域の獅子連から直接お話をうかがった。児童は事前調べをもとに、獅子舞の由来や歴史等を積極的に質問した。田中地区には100年以上前から獅子が存在し、今日まで受け継がれていることを知り、誇らしげな表情を見せる児童が多くいた。一方で、継承者が減少している現状を聞き、「ひと」への関心の高まりや、自分たちにできることは何かを考える契機となった。
③大獅子について調べよう	獅子について調べる中で、町内の小学校でも地域の獅子を調べていることを知り、4小学校でオンライン交流を行った。各学校の発表から、田中地区以外には大獅子もあることを知った児童は、大獅子の製作者や保存会の方から直接話をうかがいたいという思いをもった。獅子の継承や町の活性化等、獅子に携わる方々の思いや願いを知ることで、地域の「ひと・もの・こと」への誇りをもつとともに、自分に何ができるのかを考え、積極的に地域に関わっていこうとする意欲が高まっている。また、感じた獅子（文化）のよさを他者に伝え広げたいという思いも強くしている。今後の活動として、学んだことを家庭や地域の方に発表したいと考えるようになっている。
3 成果と課題	獅子舞の歴史や継承の実態を知ることで、児童が地域の文化を自分事として捉え、誇りをもつ姿が見られた。交流の際には、事前調べをもとに積極的に質問を行い、自ら学びを広げようとする意欲が高まった。また、児童が地域の人々の思いや願いに触れ、地域社会との結びつきを実感した。
	今後、獅子舞の担い手が減少している現状を踏まえ、児童が「自分たちにできること」を具体的に考え、行動につないでいくことが望まれる。一度の交流や調べ活動で終わらせず、継続的に郷土文化に関わる学習体系を構築していくことが課題である。

三木町教育委員会	三木町立白山小学校
1 実践のテーマ	<p>【内容項目】C15 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が国や郷土の文化と生活に親しみ、愛着をもつこと。
2 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土愛の醸成：児童・生徒が、身近な郷土である津田の松原の歴史や価値を理解し、愛着や誇りを持つ態度を育成する。 ・主体的な実践力：郷土の環境を守り、美化していくことの意義を感じ、多様な世代（幼稚園児、小学生、中学生、高校生、保護者、地域住民など）と協働しながら、主体的に自分の地域の清掃活動などの保全活動に取り組む力を養う。
3 内容【具体的な取組内容：津田の松原 海岸清掃活動】	<p>教材文を基に、以下のような活動が考えられる。</p> <p>(1) 郷土の学習：</p> <p>津田の松原が「六百年もたつ松の木もある」歴史ある場所であり、夏には「海水浴をするためにたくさん的人がやってくる」地域の財産であることを学ぶ。</p> <p>(2) 清掃活動の実践：</p> <p>幼稚園児から高校生、保護者、地域のお年寄りまで、多世代が「いっしょにそうじ」を行う合同の松原清掃を実施する。</p> <p>ペットボトルや松の枝といったゴミを協力して集める体験を通じて、環境美化の重要性を体感する。</p> <p>「きれいになっていくよ。」といった仲間との言葉のやり取りや、作業が完了した後の達成感を共有し、活動自体を「楽しい」と感じられるように工夫する。</p>
4 成果と課題	<p>○成果</p> <p>多世代連携による学習効果の最大化：幼稚園児から高校生までの児童・生徒が、保護者や地域住民と協働で活動を行うことで、挨拶や協調性を学ぶと共に、郷土を愛する地域の一員としての意識を自然と育むことができた。</p> <p>主体性・継続意欲の獲得：一度きりの活動ではなく、「白山小学校区のふれあい奉仕活動で地域をきれいにしよう」という意欲が生まれており、地域貢献活動の主体的な担い手が育っていることが確認できる。</p> <p>●課題</p> <p>成果の発信と普及：このような多世代協働の優れた実践事例を、地域内や他市町へ積極的に情報発信し、郷土教育の活性化につなげていく必要がある。</p>



三木町教育委員会	三木町立氷上小学校
1 実践のテーマ 三木町のすばらしさについて調べよう	
2 目標 <ul style="list-style-type: none">① 地域の人々との交流を行い、住んでいる人の思いや願いを知る。② 三木町の調べ学習を通して、よりよい地域をつくりたいという町の人々の思いや願いを自分の生活と比べながら理解し、自分たちの住んでいる三木町をよりよくするため、自分にできることを実行していこうとする意欲をもつ。③ 調べ学習を通して、探求する喜びを味わうと共に、町に住む人々に三木町を紹介することで、より分かりやすくまとめ、伝えることができる。	
3 内容 <ul style="list-style-type: none">① 三木町（氷上）の自慢や特徴を話し合い、調べたいことを考える。② 三木町の自慢を守り伝えている人から話を聞いたり、インターネットや本で調べたりして、情報を収集する。③ 調べた中で、その人あるいはそれに携わっている人々がどんな思いで仕事をしたり、活動したりしているのかを友だちと話し合う。④ 集めた情報や資料をまとめ、発表する。	
	
名産であるイチゴ農家の方のハウスに行き、実際にイチゴを見ながら、話を聴いた。	参観日に、大獅子を作られた方の話を聴き、獅子連の方の演舞を見せていただいた。児童も、20名ほどが、獅子を披露した。
4 成果と課題 <p>成果 まず、自分の町について実はあまり詳しくないことに気付くことができるよう、町のよさについて考える時間を取りた。すると、イチゴや獅子などについて、どんな思いで続けておられるのかや、その仕事の苦労など、実際にされている方のことを知りたいという言葉が出てきた。そこで、課題設定をして、色々な人から話を聞いたり、調べたりすることで、児童は地域の様々な仕事や取組に視点をおき、学びを進めることができた。</p> <p>課題 調べていく中で、問題点がいくつか出てきたが、それを解決するための取り組みまで、進めることができなかつた。後継者の不足や、伝統文化に対しての関心のなさなどを自分事として捉え、解決するにはどうしたらいいかまで考えられるように取り組んでいく必要があると感じた。</p>	

三木町教育委員会	三木町立平井小学校
<p>1 実践のテーマ 天野神社の大獅子について</p> <p>2 目標 大獅子のことを調べる活動を通して、郷土を愛する子どもたちを育てる。</p> <p>2 内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大獅子保存会の人から大獅子の歴史や特徴などについてお話を聞く。 ・調べて分かったことを整理する。 ・発表するための資料を作成する。 ・町内の小学校とオンラインでつなぎ交流する。 ・願いを込めて、自分たちオリジナルの獅子を作成する。 <p>3 成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○三木町は獅子舞が有名であること、三木町が獅子舞を全国にPRしていることを知らない児童がいた。学習することで、三木町が獅子の町であることを知り、興味をもつ児童が増えた。 ○事前学習もかねて、天野神社の大獅子について自分たちでインターネットを使って調べた。ネットにはあまり多くの情報がなく、世界中の獅子の情報があり、天野神社の大獅子のことなのか、正確さがあいまいな情報がたくさんあった。実際に天野神社の大獅子保存会の会長さんからお話を聞くことで、事前に調べた情報が正しかったのかを確認することができた。インターネットには載っていなかった情報も知ることができ、ネットよりも直接話を聞くことの重要さを実感できた。 ○校区にある大獅子なので、実際に見学することができた。本物を間近で見ることができ、改めて大きさを実感していた。興味津々で大獅子の顔を覗き込み、気になることは、大獅子保存会の会長さんにすぐに質問していた。 ○天野神社の大獅子が97年前に作られ、現在は3代目であることを知り、長い間受けつがれてきたこと、一度途絶えたが復活したことなど、大獅子の歴史を知ることができた。 ○今年度は三木町内4つの校区でそれぞれ獅子自慢をする活動があった。そのために、自分たちの大獅子を紹介するために調べたことや分かったことをまとめる活動をした。一番伝えたいと考え、どのように伝えると分かりやすいかなど、プレゼンテーションの方法を工夫しながら天野神社の大獅子について三木町内の他の小学校に発表することができた。 ○三木町内の他の獅子のことを知ることができ、三木町が獅子の町であり、どの獅子にもよさがあることを知れた。「獅子をしてみたい」「これからも大事にしたい」と感想をもつ児童もいた。 ○天野神社の大獅子学習を図画工作の段ボール工作とつなげる活動も行った。段ボールから獅子を作る活動に子どもたちはかなり意欲的だった。どんな思いを込めるかを考え、その思いにあった色、目、鼻、髪の毛、耳、飾りなどを、天野神社の大獅子の写真を参考にし、試行錯誤しながら制作できていた。「自然を大事に」の思いを込めた獅子は緑色や黄緑色を基調にしたり、「やさしさ」の思いを込めた獅子は、水色を基調にかわいらしい目にしたり、それぞれのグループがこだわりをもって仕上げていた。仕上がった獅子を休み時間に「コンコンチキチキ」と言いながら数人で獅子舞遊びをする姿も見られた。 ▲大獅子に興味をもち、大切にしたいと考える児童は増えたが、実際に自分たちにどんなことができるのかまで考えさせることができていない。少しでも地域の獅子連などに参加できる児童を増やして、歴史を途絶えさせないような手助けができればよいと思った。 	